

医療福祉管理演習 I

第4回

病院組織(臨床、検査、放射線)

江原朗

病院の組織

- 医局診療部門：各診療科の医師（内科系、外科系、その他）
- 看護部：看護師（外来、病棟）
- 検査部：生化学検査、生理学検査、病理検査、細菌学的検査
- 放射線部：診断、治療
- 薬剤部：処方薬の調製、服薬指導
- 事務部：次回、服部先生が講義

医局

- 医師が主体
 - 内科: 内科、消化器科、血液内科、神経内科、循環器内科など
 - 外科: 外科、消化器外科、胸部外科、
 - 整形外科
 - 脳神経外科
 - 産婦人科
 - 小児科
 - 耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、

医局の特徴

- 医師の雇用は病院であるが、人事権は派遣元の大学病院にある
- 医師は開業することができるので、勤務条件が悪いと退職する危険性
- 病院の労務管理が不十分
- 患者との医療行為の契約ができるのは、病院では医師のみ。

看護部

- 病院でもっとも人数の多い職種
- 外来、入院の看護師の管理を行う
- 看護師長：各ナースステーションでは、看護師の勤務体制を組んでいる。
- ナースの1年あたりの退職率は1割を超える

看護部の特徴

- 看護師の中途採用・転職・退職等、回転が速いために人事管理が難しい。
- 若い女性の職場：結婚、妊娠、出産等の人事管理にあたる影響が大きい。
- 免許資格が正看護師、准看護師、看護助手など様々で、同一の仕事を異なった職種職員が実施している可能性。

検査部

- 生化学検査、血液検査：採血した血液を検査する。この部門は外注化に傾向
- 生理学的検査：心電図、脳波、肺機能検査など人の体に電極等とつける検査。外注は不可。
- 病理検査：手術等で取った細胞や組織を顕微鏡で検査
- 細菌検査：痰や便、尿から細菌やウイルス、真菌が検出されるか検査。

検査部の特徴

- 生化学検査では、外注化により、病院職員ではない人が検査を実施している。
- 夜間休日の検査ができないと、救急医療を提供できない危険性も
- 職種：臨床検査技師等

放射線部

- 放射線診断と放射線治療
 - 放射線診断：単純写真、CT、MRI、エコー等。そのた、カテーテル検査等
 - 核医学診断：放射性同位元素を体内に投与し、体の機能を検査する。
 - 放射線治療：がん治療の一環として行われる。

放射線部の特徴

- 職種：
 - 医師：放射線科医、カテーテル検査では消化器内科、循環器内科、脳神経外科、その他の医師も関与
 - 診療放射線技師
- 被ばくの可能性は、放射線科医や診療放射線技師よりも、カテーテル検査等を行う医師の方が高い。
- フィルムバッジで被ばく線量を管理。

薬剤部

- 職種：薬剤師
 - 処方薬の調製：院外処方が増加
 - 服薬指導：病棟内まで服薬指導で薬剤師が入る傾向。